

## ■ 第3回（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会

日時：令和2年2月28日（金）午後2時～

会場：新潟市役所本館6階 講堂

### （司 会）

本日はご多用のところお集まりいただき、誠にありがとうございます。

ただいまから第3回（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会を開会いたします。

私は本日の司会を務めさせていただきます新潟市政策企画部の草間と申します。よろしくお願いいたします。

はじめに、配付資料のご案内をさせていただきます。本日お配りした資料は、次第の下部、配付資料一覧に記載の2種類となっております。

次に、本日の流れについてご説明いたします。本日は議題として、2の（1）これまでの懇談会での主なご意見等について。（2）（仮称）古町地区将来ビジョン（案）についてがございます。事務局より一括してご説明させていただきます、その後に委員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。

なお、本日の懇談会はおおむね1時間半から2時間程度を予定しております。協力をよろしくお願いいたします。

会議に先立ちお願い事項を申し上げます。本日の懇談会は（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会開催要綱第5条第3項の規定により公開での開催となります。新聞、テレビ局各社より取材の要請がありましたので、撮影並びに録音についてご了承ください。

会議概要については後日、新潟市のホームページで公開させていただきます。公開する内容につきましては、事前に委員の皆様にご確認いただきたいと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。なお、本日の会議は記録用として、事務局で撮影、録音させていただきますので、ご了承をお願いいたします。

最後に、本日の委員の出席状況についてですが、委員9名全員が出席でございます。オブザーバーの田中所長からは欠席とのご連絡をいただいております。

それでは、議事に入らせていただきたいと思います。以降の進行につきましては西村座長にお願いしたいと考えております。西村座長、よろしくお願いいたします。

### （座 長）

よろしくお願いいたします。今、司会からもありましたが、今日が最後ですので、思いの丈をおっしゃってください。また、最後ということもありますので、議論が終わった後に、皆様お一人おひとりに最後に締め言葉、最後に言っておきたいことがあれば、ワンラウンドの発言をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、（仮称）古町地区将来ビジョンについて、（1）と（2）がありますが、事務局からまとめて説明をいただいてディスカッションしたいと思います。事務局から説明をお願い

します。

### (事務局)

(1)、(2)をまとめて説明させていただきたいと思います。まず、本日は年度末にもかかわらずご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日は3回目ということで、これを最後にできればと思っておりますが、今までの1回目、2回目のご意見を踏まえまして、しっかりとした内容のものにしてビジョンをまとめあげていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

この場を借りてご報告でございますが、すでに報道等で委員の方々にご承知かと思ひますけれども思ひます、来年度4月から私どもの政策企画部に古町再生プロジェクトチームを設置し、古町再生に向けた取組みを強化していきたいと考えております。これまでもさまざまな部、課において、古町に関連する事業に取り組んできているわけですが、既存の部、組織の枠を超えた課題解決型と我々は呼んでいますが、プロジェクトチームを設置し、より積極的に前に進めていきたいと考えているところでございます。規模、体制等につきましては最終の調整段階でございまして、未定ではございますけれども、担当の政策監等を含めスタッフ及び関係する部署の方々で構成するようなイメージで調整しているところでございます。体制のほうも見え始めておりますので、本日ご意見をいただく中でこのビジョンを完成させて、4月からの新しい取組みのスタートラインに立ちたいと思っておりますので、本日改めてご意見をよろしくお願ひいたします。

お手元の資料をご覧いただきたいのですが、はじめに、資料1でございます。これまでの懇談会における主なご意見等という形で、1回目、2回目のご意見について整理させていただいたものでございます。ご意見の方向といたしましては、ビジョンに対する考え方の中では、古町地区が持つ昔からあるものや特徴、いわゆる古町の強みを生かすという視点や方向性を打ち出していったらどうだろうかというようなご意見をいただいたところでございます。

また、コンセプトの部分では、方向性の意見を踏まえ、古町らしさを出すとともに、明るい未来がイメージできるような未来志向でというご意見をいただいております。また、非常に多くの皆様から人と人とのつながりですとか、時間のつながりといった、「つなぎ」とか「つながる」といった言葉をたくさんいただいております。このようなところもビジョンに反映させていけたらということで、ご意見をいただいております。

また、イメージパースでございますが、絵で表現したのは大きな前進としながらも、やはり多かったのが、絵が一人歩きする可能性があるということで、実現の可能性ですとか、公的な部分については管理者との協議、調整といったものが十分必要、配慮すべきではないかといったご意見をいただいております。

今後の方向性におきましては、エリアごとに一つずつ進めていくなど、少しでもいいので成功例を積み上げていただきたいというお話を前回いただいていたと思ひます。併せてビジョンの公表時期等につきましても、古町が大きく動く時期をにらんでというようなご意見もいただいております。

以上のようなご意見を踏まえながら、今回、最終案といたしまして資料2「(仮称)古町地区将来ビジョン(案)」を用意させていただきました。前回からの変更点などを中心にしつつ、順次説明させていただきます。2ページです。「はじめに」の部分は特段変更しておりませんが、中に書いてありますに、「はじめに」ではビジョンの目的というものを強調させてもらっております。あくまで具体的な内容を書き込むということよりも、古町がこうだったらいいよね、古町はやはりこうだよねというあたりの思いみたいなもの、方向性を共有するというあたりに、このビジョンの目的を置いているということでございます。このところを「はじめに」の中に書かせていただいております。

3ページの古町地区の歴史ですが、これは6ページまでございます。3ページから6ページまでの整理の中で若干変更したものがございます。第2回の資料では、湊町の面影として今も残っているような基本的な街区や町割り、歴史的建造物についての記載がありましたが、その部分を次のページの古町地区の特徴という形で整理しております。したがって、その部分以外は古町地区の歴史という部分については特段、変更はございません。堀、通り、小路といった今日まで至る重要な役割を担っているという、その機能から始まって、それぞれ時代ごとの移り変わりを写真等を用いて説明しているところでございます。

次の7ページ目で古町地区の特徴ということで、前回もご意見いただきました古町の強みといったあたりをここで少し書き込みをさせていただいたところでございます。古町地区の特徴では、今ほど申し上げました前回資料の湊町の面影の部分と、それから古町の現状や課題を一つにまとめまして古町地区の特徴として整理し、8ページの下段にあるように、古町再生に向けた意気込みとして、読み上げますが、古町地区の強みである趣や文化を守り生かし、さらに磨くことで、新潟の人々のまちへの愛着と誇りを育むとともに、交流人口の拡大や経済の活性化に結び付けつけます。として記載したところでございます。

次に、9ページをご覧ください。ここが前回、標語的なコンセプトという辺りでかなり委員の皆様方からご意見をいただきまして、それぞれ事務局で一つ、一番上の四角の中でまとめさせていただきました。「つながりを育む歴史まち 古町」とし、サブタイトルとして、～ヒト・モノ・コトの交流が新たな未来を切り開く～としたところです。前回のご意見でも、時間や人、歴史的な建物といったものつながりを大切にしながらも、これからの明るい未来に向けて再生していくことを表現したところです。また、中段、方針と書いてありますが、この中の四角の2ですが、表題中、「住んで良し、訪れて良し」のところに「働いて良し」という形で、そこで商いをしている方々も含めた方向性というものを表現したものでございます。一番下の下段については、前回からの変更は特にありません。「可能性は人。誇れる街の礎を、次の150年に繋げます」ということです。

次の10ページです。ここも若干修正させていただきました。まず、ここに都心の都市デザインについての項目を加えさせていただきました。それとともに、前回の資料までは「将来ビジョンの対象とする範囲」という項目を置いて、赤枠で具体的に対象範囲を明示して、赤い線で明示しておりました。ただ、これまでのご議論やご意見を考慮すると、対象範囲を限定する

のはどうなのかというのが事務局の中の考えでございました。例えばですけれども、他の区域、白山公園やりゅーとびあのある文化的な区域ですとか、あと、旧齋藤家別邸、行形亭、それから北方文化博物館新潟分館といった歴史的な雰囲気のある西大畑の辺り、また、下町（しもまち。以下共通）といった住居区域など、今後も連携していくべきところのご意見の中でも多くいただいております。そういうことも考えますと、逆に、商業地域を赤く線を引っ張ったわけですけれども、対象区域として明確に区切るのではなくて、都心の都市デザインに位置づけられた旧市街地・開化ゾーンの内、今回、ビジョンでは次に示している五つのエリアをまず最初の動き出しとしてとらえていますというスタートラインに立ちたいというところでの表現を変更させていただきました。したがって、次の11ページのエリア分けのところですが、前は色で塗ったエリアの外側に赤枠で対象範囲というのを区切っていたのですが、今回は色で塗ったエリアの外側に赤枠で対象範囲というのを区切っていたのですが、この赤枠を今、消している状態でございます。

次に、12ページです。今までの1回目、2回目の議論を踏まえまして、特段大きな変更はありません。12ページはエリアの概略を一覧で記載したところです。また、13ページ目からはエリアごとの目指す姿をイメージスケッチや説明書きなどで表現している状況です。このイメージスケッチ等については、前回までは五つのエリアをモノクロで表現していましたが、今回は着色のうえ、イメージスケッチを全部で8場面、後ほど説明させていただきますが、8カット用意させていただいております。順次、13ページ以降について説明させていただきます。

A3横になります13ページをご覧ください。こちらは古町花街エリアの内、昼間の古町花街エリアをイメージしたものです。繰り返しますが、ここでの部分は大きな変更はありません。歴史的建造物の保存、そして活用をメインで考えていくエリアとして位置づけております。

14ページをご覧ください。これが新しく加えたカットです。夜の古町花街のイメージを表したものです。昼間の姿に対して、より趣を感じられるようにするため、イメージスケッチ上では適度な明るさを保ちつつも、単に上から明かりを照らすのではなく、建物が浮かび上がるようにするなど、照明に工夫を凝らし、一層の風情を醸し出せるような町並みというものをイメージして作成させていただきました。これが14ページで新たに追加したものです。

続いて15ページです。榎谷小路エリア（古町ステーションエリア）と表現しているのですが、さまざまな業務機能が集積された地区である古町ステーションエリアです。公共交通の集積エリアでもあることから、来街者の移動や案内に対応するハブ的な機能が充実しているとしています。来街者にも使いやすい移動ツールや一呼吸つけるくつろぎのスペースの配置など、若干の挿絵の追加修正はありましたが、大きな方向感での変更はありません。

次のページが新たに追加させていただいたものです。16ページです。榎谷小路エリアと次のページで紹介している古町モールエリアの重なった、いわゆる交差する部分をイメージしたものです。今後整備予定のルフルの前の広場や総合案内所など、直近で新たに整備される街頭をイメージしたもので、これからの古町の賑わいの創出の第1段として考えている部分を

イメージしたものになります。

ここで、前回、桎谷小路エリアのところで行ったご意見をいただいた部分ですが、道路管理者である新潟国道工事事務所との調整という辺りで若干協議してまいりましたが、新潟国道事務所からは、具体的な案がない状態ではなかなか判断しにくいということもありました。ですので、今回のイメージスケッチにつきましては、あくまで新潟市が描いたイメージとしての記載という形で、今後、具体的な動き出しが出た時点で改めて新潟国道事務所との協議を行うということ考えているところです。

続いて、17 ページです。古町モールエリアです。イベントやアートカルチャーなどと店舗がコラボし、賑わいの相乗効果が生まれ、歩くだけで楽しいエリアと考えております。目指す姿や方向感に変更していません。なお、前回話題になった歩道上のテラスデッキについては賛否ありましたが、やはり独り歩きということを考えると、イメージからは削除しているところです。ただ、モールの高さを生かした賑わいの創出といった特徴を残しておきたいというところもありまして、一部歩道脇の民地側において2階部分をテラス的に活用しているというような見せ方の中で、この高さを生かした古町モールの活用というものを表現しております。

続いて、18 ページの本町エリアです。こちらについても、基本的には前回ご意見いただいたところから変更はありません。地元ならではの味が楽しめるとともに、日用品や衣料品など、飾らない新潟の普段の生活が感じられるエリアとしております。人情に触れられるような、どこかに懐かしさが感じられる町としての位置づけを表現しているところです。

次の19 ページです。上古町エリアについても、前回お示ししたコンセプトというか方向性に変更はありません。上古町エリア（ミックスカルチャーエリア）と書いてありますが、その脇に副題にもあるように、～古さと新しさのある白山公園に続く文化門前町～としています。和風洋風のショップとか、それから物販など、新しいものと古いものなどさまざまなものが混在しているエリアということで、町としての新しい動き出しが見える地区となっています。建物はいじらず、店舗の中、ソフトが充実され、一つ一つのお店を覗いてみたくなるようなわくわく感のあるようなエリアという位置づけをしております。

19 ページまでがイメージスケッチとなっていますが、前回いただいたご意見に基づきまして、このイメージスケッチが独り歩きしないようにということで、13 ページから19 ページまでですが、資料の右上に米印で「掲載内容はあくまでイメージです。」という注釈書きを入れさせてもらっています。これがどこまで効くのかというのは疑問ではありますが、取り敢えず、このような形で注意、配慮しているということです。

最後、20 ページです。このイメージパースも追加したもので、各エリアの連携として用意したものです。特に、前回の懇談会で提示した資料では内容が伝わりにくい、ちょっと何を表現しているのか分からないといったページがあったので、それに代わるものとして用意したもので、基本的には五つのエリアの連携を中心としつつも、白山地区や西大畑、下町など周辺地区も含め、それらとの位置関係を表した資料として用意させていただいております。

21 ページですが、20 ページに関連するものです。各エリアをつないでいる、またつないで

きた、冒頭でも出ていますが、通りですとか堀、それから小路などを紹介したものです。今後のエリア間の連携とともに、周辺地域との新たな連携に際しましても重要な役割を果たしてくるものということで、位置づけをさせてもらっております。

最後の22ページも大きな変更はありません。将来ビジョンの実現に向けてとして、今後の方向感を記載したものです。前回の懇談会でも説明し、また、私も冒頭に説明しましたが、この将来ビジョンはあくまでも古町地区のグランドデザインを描いたものです。目指すべき方向性を皆で共有すること、それが大きな目的です。古町がこうなったらいいね、もしくは古町ってやっぱりこうだよねといったところに多くの市民の方々から古町の方向性や将来のイメージが共有されることを目的にしたものです。そのため、具体的な事業や個々の取組みはこのビジョンの中に盛り込まず、逆にこのビジョン策定後に検討するというので、今までご説明してまいりましたが、今後、これまでのビジョンの検討の中でいただいたこのご意見につきましては、今後の具体的な検討の参考としていきたいということで、いただいたご意見を概ね六つの視点にまとめて、将来ビジョンの実現に向けてということで、このような記載をしているところです。

一番上段に記載しましたとおり、「明るい未来のためにみんなでどう取り組んでいくか?」。特に明るい未来、また、それに向けてみんなという辺りを、ぜひ、強調していきたいと考えているところです。

ざっとですが、取り敢えず、今回の資料2は以上です。ご意見をよろしく願いいたします。

(座 長)

ということで、まとめていただきました。それでは、この案についてご意見、ご質問等あればいただきたいと思います。いかがでしょうか。

(長谷川(雪)委員)

絵もとても分かりやすくなって、イメージがとてもつきやすくなって、親しみのあるものができたなと考えております。

少し気になったのが、また20ページのところで大変申し訳ないのですがけれども、前回、分かりづらいと言ったのは私だったのですけれども、今回、こうやって見て、連携がとても分かりやすくなったかというところ、どうかなというところ。すみません。エリアごとだったら、例えば、エリアをまたいでいくようなイメージが分かればいいのですがけれども、そこがちょっと。それぞれのエリアの中をよく見ると、人がいる箇所がちょこちょこ見えると。この絵もとてもかわいいので、もっと活かせばいいなと思ったのです。例えば、エリアのところで、ここを見たから次にこちらに行こうかなという動きが見えたり、また、エリア外のところ、例えば、西大畑とかそちらのほうに行く方がそこで少し見えたりとか、少し動きが見えるような絵のほうがいいのかなと。絵がかわいいし細かくて私はとても好きなのですが、上から色でおさえてしまっているところもあって、少しよさが活かし切れていないような気がします。どうすればいいのかというのは、もっといろいろな委員のご意見をいただきたいと思うのですが、

(座 長)

エリアの連携というところはもう少し詳しく知りたいと思います。

(迫委員)

補足ですけれども、関係性の矢印などが出てくればいいのか、今、場所の色分けした図なだけなので、例えば、上古町にいた人が人情横丁に行くとか、まち歩きコースが載っているとか、文化歩きはこの辺りだ、買い物とかビジネスの人はこういうラインだという線が入ってくると分かりやすいです。

(長谷川委員)

例示の中で、文章であってもいいのですけれども、こんなふうに行くのもあるよねとか、何か具体的に、連携というかまたいでいくイメージが分かると、なお活きるかなという気がします。

(座 長)

エリアのイメージは描いてあるけれども、どういう連携をするかの具体的なイメージが少し分かりにくいということですね。

(知野委員)

今年から巡回バスのコースに花街バス亭みたいなものができたりしているし、しも町オンデマンドバスみたいに下町に行きますみたいなものが下町のほうではあると思いますので、そういった普通の動線なども入れると、ホワッツマイケルの絵が描いてあるものがぐるぐるしているので、もう少しそういう動きがあるように見えるといいのかなと思います。

(座 長)

なるほど。絵は割合ハードにつなごうとしているけれども、ソフトにいろいろつなぐ工夫があるのではないかということですね。

(知野委員)

そういうものを少し入れるといいかなと。

(岡崎委員)

20 ページの図で全部表現するのはなかなか。これはせっかく立体に書いてあるので、立体に書いてある分かりやすさとそういうものはまた別問題だから、例えば、10 ページの図、観光循環バスだと、多分、20 ページの図には入りきれないので、10 ページの図とうまく使い分けてどちらをというかどちらがいいのかということも含めて、平面図的にネットワーク、横との連携などは多分、平面図のほうが書きやすいと思うのです。少しその辺も含めてご検討いただいたらいいのではないのでしょうか。

(前川委員)

20 ページの絵のところ、左上に連携等のところの解説みたいなものが書いてあるのですけれども、その中で回遊性を高めるという文言が入っているのです。この絵のところ、それぞれのエリアで共通しているところというのは、メインストリートに関しての話なのですけれども、アーケードがみんなつながっているのです、仕掛けとして。榎谷小路、本町通、古町

通というところで、ずっとアーケードで、これは少し隠れているところもありますけれども、つながっているような部分があるので、それを少し色を違わせて回遊しやすいような仕掛けになっているのだという表し方をするのもどうなのかと。少し違う観点ですけれども。

(座長)

アーケードというのが一つの手がかりになるのではないかということですね。

(前川委員)

そうです。ビジュアル的に見たときの。

(迫委員)

古町の全体図というタイトルだけにして、よけいなことを書かなければ、いい絵だねというか、場所関係が分かって、海も見えるし、そういう場所かなというのが分かるので、10ページの次とかにつけてあげるというか。立体的に見るとこうですよ、のほうがいいのではないかという気がします。

(座長)

この位置づけですね。

(宮田委員)

私はこの図面を見ただけで、白山神社の鳥居から一気にパワースポットに見えてくるのです。鳥居からこの通りをずっとまっすぐ続いているところは全国にたくさんあるのでしょうか。私はよく分かりませんが。一種のパワースポットにしか見えないような感じで、これが先ほど、それこそ回遊できるようなアーケードを、雨にも濡れないところを歩けるといふ部分が表現できたらいいなと思います。

(座長)

白山神社とのつながりのところが面白いと。

(宮田委員)

お寺のところももっと。お寺がせつかくこれだけあるから。

(長谷川(正)委員)

事務局からここまでやっていただいて、本当にありがとうございますと言いたいです。ただ、現場レベルでいくと、1枚でこれを集約しなさいというのはなかなか難しいことだと思うのです。だからこういういろいろな書面があって、言葉でされて、実は現場でこうなのですよというのが、多分、事務局が言いたいことだと思っているのです。それが人と人なのではないかと。ただ、建物と文章だけでは新潟のよさは分かりません。一つ一つのよさがものすごくあるのです。本町から始まって古町のあそこの一角とか、昔の映画館はこうだったのだとか、それは人が喋っているから分かることであって、それが、例えば、文章があって人がいて建物があつたら、大した資料になると思います。しかし、なかなか1枚では難しいのではないかと私は今、皆さんの話を聞いてふと思ったのです。本当にここまでやってくれてありがとうございます。

(小沢委員)



20 ページにこのパースが入っていますが、例えば、これを 11 ページの後ろの 12 ページくらいのところに挟み込んで、順序立てていって、全体図を見た後に各々のゾーンを細かく見るというように連動すると分かりやすいと思います。

(座 長)

つながりはまた別の形で工夫したほうがいいということですね。

(小沢委員)

全体図を見た後に細かいものを見ればよいということです。

(座 長)

先ほど迫委員がおっしゃったように、これは全体図を表しているのだと。我々が議論しようとしているもの。なるほど。

(岡崎委員)

20 ページの話になったので、細かいことで恐縮なのですが、この図は今までになかった図なのです。こういう図は今まで新潟になかったので、これはとてもいいと思います。分かりやすいし、よその町だとときどきこういう立体鳥瞰図を作っていますけれども、新潟には今までなかったもので、これはとてもいい図だと思います。だから本当はよけいなことを何も書かない元図だけで売り出してもいいのではないかと思うくらいなのです。

それで、せっかくなので、細かいことで恐縮ですが、例えば、鍋茶屋とか大事な建物は細かく書き込んでありますよね。これも大変いいと思うのですが、せっかくなので、重要文化財になっているような建物、例えば、県政記念館とか萬代橋はもう少し同じレベルくらいで書き込んで色をつけていただけないかなというのと、それから旧市長公舎とか砂丘館とかそういう、そこは道がなくなっているのですが、そこもけっこう大事なスポットです。白山公園も名勝ですから、本物らしく、少しレベルを上げて書き込んでいただけないかなと思います。これは大変役に立つ図だと思います。

(座 長)

注文も出ております。

(迫委員)

私は最近、とてもいい地図を作ったのです。よかったらデータを差し上げるので、うまく使ってくださいといいのではないかと思います。宣伝みたいになりますけれども、よかったら。

(座 長)

では、少し回覧していただいて。

(迫委員)

この会に参加して感じることをまとめていながら。

(座 長)

これを回します。

(迫委員)

回していただいて。たくさんあります。

(座長)

では、一人1枚ずつ。

(迫委員)

間違いもあるかもしれないですけども。こういう情報というか、全体が分かるようなものが、先ほどの立体的なものでできればもっと楽しくなるのではないかという気がします。

(座長)

ありがとうございます。大変愛情にあふれた地図ですね。

(迫委員)

話が変わって、9ページなのですけども、古町地区の将来ビジョンで、やはり「つながりを育む歴史まち 古町」と「～ヒト・モノ・コトの交流が新たな未来を切り開く～」が何かよくありそうな感じが少しして、将来ビジョンの割に、最後にもう少し頑張りたいなという気が私はしたのですけれども。皆さん、気にならなければ。

(座長)

例えば、何かありますか。

(迫委員)

その代案がなくて申し訳ないのです。思いついていなくて。少しもやもやしてこの日を迎えてしまったのです。

(事務局)

何かヒントみたいなものをいただくとありがたいのですけれども。

(迫委員)

そうですね。まだヒントもないのです。

(座長)

多分、これはあれですよ。前回、やはり人間とかつながりとかものだけではないという話があったので、そういうことが割合描かれていて。

(迫委員)

そうなのです。ほかの地域でも言える感じが。「歴史まち 古町」というところはいいと思うのですけれど、何か新潟らしさがあるといいなど。どこに向けての古町なのかという問題で、県内の中での古町であれば、古さを感じるような歴史などは強みになるような気がするのですけれども。それが県外とか世界とか広がってくると古さというだけではなかつたりもするから、何だろうなという。

(小沢委員)

特に答えにはならないと思うけれども、先回、西村座長が新潟の町は残った町だということで、日本の中でも珍しいとおっしゃったと思うのですけれども、その部分がさらっと抜け落ちていると思うのです。歴史があるといっても、日本の中では珍しい町並みが残っているということを入れた中で。

(座長)

近世の最先端なのです。そのようにできた町です。

(小沢委員)

そういうものを入れたほうが、ほかのところと差別化がされてとがった部分ではないかと思うので、そういったものを入れた中で歴史を感じるというような気がします。

(座長)

単に歴史といわないで、どういう歴史かという、何か一言形容詞がほしいということですね。難しい注文が出ています。悩むのです。

(小沢委員)

中段の方針(もう少し具体的に)というのは、括弧の中は消し忘れですか。

(事務局)

すみません、消し忘れです。

(座長)

消し忘れですか。これはもう少し具体的にすることですか。した結果がこれですか。

(事務局)

まだ中がふわふわしていたときに、もう少し具体的にここを書き込みましょうという視点を合わせて、打ち合わせのときに使ったものがそのまま、すみません。

(座長)

それで、これは具体的にになった結果なのですね。

(事務局)

私たちとしては具体的にしたつもりです。

(座長)

ということです。どうでしょうか。この辺は文字として出てくるところなので。

(前川委員)

方針の1のところの表現なのですけれども、1のタイトルで「300年を超えるみなとまち文化の価値を届ける」となっているのですけれども、我々地元の間が外の人たちに対して届ける前に、価値をまず知ることと、あとは守ること。それをある程度両立させて届けるというようなプロセスが必要なのではないかと。実は、知るという部分では、例えば、今、古町花街がかなりクローズアップされてここには記述されているのですけれども、生まれも育ちもこの周辺でありながら、花街の存在を知ったのは、恥ずかしい話、私は10年前くらいなのです。やはり、地域の財産みたいなものが、埋もれているものが、多分、まだまだたくさんあるのだろうなという意味では、意外と地元の方であっても知らないことがかなりあるのだろうな。そのために、まず、我々でいいものを知ろうじゃないかというような機運を作り出すということは非常に重要なのかなと。

あとは、今、花街とかそういう古い建物でも、だんだん経年劣化で朽ちていくようなものがある程度手をかけて守っていかなければいけない。そのような整理みたいなことも議論していくことが必要で、そのある程度組み立てをしたうえで、外に対してこういう価値があります

というものを言っていくべきなのではないかと思っています。この1のところはそういう表現を少しつけ加えたほうが良いと思います。

(座長)

届けると言うともう分かってしまっているみたいだけれども、実はもう少し深くやればもっと発見するものがあるのではないかと。そういう表現が加わるべきだという話ですね。

(岡崎委員)

先ほどのお話で、近世当時の最先端ということも強調したほうが良いと思うのですが、それともう一つは、前も申し上げたかもしれませんが、空襲を受けていないということなのです。いわゆる市街地が壊滅的に消失するような空襲を受けていないこれほどの大都市は京都、金沢、新潟、札幌しかないわけで、これが新潟をほかの町と違わせている決定的なことなのです。なぜ花街が残っているか、なぜ鍋茶屋が残ったのかと言えば、空襲を受けていないからなわけですから、これが決定的な新潟の特徴なわけですね。それで、それは書きにくいのです、受けていないから。例えば、大火がありました、地震がありました、これはしょっちゅう宣伝されるわけです。逆に言うと、それが外に対してはあまりよくないイメージを発信しているのです。新潟はないのだと、残っていないのだというイメージを発信しているのです。実は、空襲を受けていませんということは普通は言わないですよ。だから、実は新潟は歴史的な町なのだという情報は外に出ていかないし、地元の方もあまりそういうイメージが湧かないのです。この空襲を受けていないということは強調したほうが良いです。だから、すごくよく残っているのです。まちなかにこれだけ国の文化財がたくさんあるというのも空襲を受けていないからです。それは強調したほうが良いと思います。

(座長)

どういう表現でやるか、少し工夫しなければいけないですね。難しいと思うけれども。

私も言わせてもらおうと、道路パターンが非常にユニークに残っているのです。非常に大きな榎谷小路があって、堀の通りがあって、小路があって、新道の通りがあって、細い路地があると。5段階くらいにあって、それが旧の古町のところに全部残っているのです。こういう非常に明確な道路パターンが残っているというのは、まさにそういう歴史的に作られたものが現代化しながら、昔のままではないですけども、残っているというのは非常に面白いのです。しかし、なかなかそれは言われないと、住んでいると道は当たり前なものですから、そういうところがあるのです。

(小沢委員)

話題を変えていいでしょうか。10ページの表題なのですが、「新潟都心の都市デザイン」とありますが、都市デザインにおけるこの地区の位置づけとか、そういった表題にしたほうが、その全体の説明になると思います。次の11ページの表題も、「エリア分け」としてはありますが、一応、暫定的に分けたのでしょうけれども、本文中はエリアの分類と書いてあるので、その辺も、このビジョンにおけるエリアの分類というように、もう少し丁寧に書いたほうが良いかなと思います。

(座 長)

タイトルのつけ方が役所的だと。特に、10 ページの「新潟都心の都市デザイン」というのは都心全体のことを言いたいのですか。それとも古町の全体における位置のことを言っているのですか。

(事務局)

今回のビジョンの対象エリアが、「新潟都心の都市デザイン」で、デザインの中でこういう位置づけですということとともに、このビジョンは、当然、ここだけではなくて、周辺、白山ですとか西大畑のほうや下町との連携も当然考えていかなければいけないエリアだよねと。逆に言うと、これを今後拡大させていかなければいけないというところを表現したいのです。

(小沢委員)

上位計画である都心デザインとの関連という形の表題のほうが分かりやすいと思います。

(座 長)

表題が素っ気ないということですね。今おっしゃった思いが伝わらない。

(知野委員)

また戻ってしまうのですが、9 ページの「古町地区の将来ビジョン」の2番で、先ほど西村座長からお話があったと思うのですが、明確な道路パターンとかそういうものがあって、とても珍しい町だといわれていて、なおかつ2番が「住んで良し、訪れて良し、働いて良し」という。「ちょうど良い」というのは少しどうかと気になったので、例えば、面白いとか、少し分からないですけれども、みんなが心地よく過ごせる。「ちょうど良い」というのが何となくちょっと。「ちょうど良い」というのを何かアイデアがあれば。

(座 長)

中途半端な感じがすると。「すごく良い」のではなくて「ちょうど良い」くらいだというように聞こえてしまうということですね。

(知野委員)

もう少し。

(迫委員)

私は「ちょうど良い」は割と好きというか、いいと思っています。そんなに人がたくさんいるわけでもなく、過ごしやすいし働くところもあってという。「バランスが良い」とかでもいいですね。そういうニュアンスであれば肯定できるのかなと。

それで、補足ですけれども、先ほどの「300年を超えるみなとまち文化の価値を届ける」のところに、先ほど出たような空襲を受けずに歴史が色濃く残っているとかという言葉が入れば、その理由が明確になってくるのかなと思います。あと、タイトルで、歴史が色濃く残るとかまでつけてもいいのかなという気がしています。歴史文化が色濃く残る、古町の前に「新」とかつけて、新古町というような。新たな未来へ向かうという未来志向は入っているのですけれども、ネーミングに未来志向が入るのが、生まれ変わろうとしているというのがあるといいなという意味で、古町の前に「新」とか。ニューだと少しださい感じがするので、新古町くら

いだと、何かビジョン感があるかなという気が私にはしました。そうすると、下の「ヒト・モノ・コト」がそれをフォローするような形で入っていてもいいですし、もう数ポイント文字を小さくして控えめにするといいのかなという気がしました。

(小沢委員)

あと、表現的に。8ページの中段の歴史的建造物の下のほうなのですからけれども、2行目に「三業(料亭、茶屋、置屋)」とありますけれども、三業という言葉が要るのか要らないのか。三業組合というのももちろんありますけれども、例えば、料亭とか、あと、待合が正解だと思うのですけれども、あと、置屋とか、三業でくくらずに、料亭とか待合、置屋という表現になるでしょうか。

(座長)

8ページの歴史的建造物の二つ目の丸の三業組合の三業という言葉は、具体的に三つ上げれば通じるのではないかと。

(小沢委員)

要らないのではないかと思いますのですけれども。三業って普通は知らないですよ。

(宮田委員)

知らなくても、知ることも大事のような気がして、ここで実際に三業という会館、三業会館があつて、もう何十年、相当古かったですよね。あれを中心として花街の動きをやっていたというのは確かなので、知らなかったことを知ってもいいのではないかとというのは。

(座長)

それも歴史ですからね。大事な歴史だと言えば歴史ですよ。

(宮田委員)

そうなのです。その代わり、それを簡単にここで括弧でやってしまうと何だか分からないので、三業といわれる意味というか、なぜそうなったのかが分かれば、三業というくくりにして組合なりを作っていたのかというのは、皆さんが分かる、この辺まではきちんと分かっているほうがいいのかなと思います。分からないよりも、分かってもいい。

(小沢委員)

では、残すなら、茶屋ではなくて待合というのが正解です。

(岡崎委員)

これは我々が作った資料が基かもしれませんが、待合は少しいろいろな問題がはらんでいて。

(小沢委員)

やはりそうなのですか、表現的には。

(岡崎委員)

なので、敢えて茶屋にしてあるのです。

例えば、これをどこまで、これは別にガイドブックではないからどこまで細かく書くかというのはありますけれども、下に空いているスペースが途中で少し、三業とは何かみたいな。

(座 長)

具体的に、きちんと正確に書くと。

(岡崎委員)

茶屋と料亭は何が違うのかとか、そもそも置屋だと分からない人がたくさんいるでしょうから、もし必要であれば補注をつけてもいいのかなと。

(座 長)

そうですね。そのほうが誤解がないですよ。では、三業は残してもう少し正確に補注で書くと。

(岡崎委員)

細かいことで恐縮なのですが、10 ページ、11 ページの地図に、下のほうに旧小澤家住宅を書いているのですけれども、これは市指定文化財なので、ほかに重要文化財とか登録文化財と書いてあるから、市指定文化財と書いていただいたほうが価値が。なぜ旧小澤家住宅が書いてあるのかが分からない方もいらっしゃるでしょうから、市指定文化財だということは10 ページ、11 ページに書いたほうが下町の方も安心なさるのではないかと思います。

(座 長)

登録文化財が書いてあるのに、市指定文化財のほうがもっと。

(岡崎委員)

そういう意味では、古町愛宕神社も市指定文化財で、古町で一番古いと言われている建物ですから、書くかどうかという問題はありますけれども、古町愛宕神社もあっていいのではないかと思います。

もう一つ、細かいことで恐縮ですが、19 ページの右下の①から⑧の⑤に「レトロな街並みに」という話がありまして、一般によく使われる言葉ではあるのですけれども、最近、村上市や佐渡市でもレトロという言い方をなるべくやめましょうと。つまり、レトロというといわゆる懐古主義といわれますけれども、古くないものを古っぽく見せる方向をイメージしてしまうし、実際、そうなっていることも多いのです。そうすると、世の中には、よく、町並みを残すということは本物ではなく偽物を残すことなのだとか誤解している方もたくさんいらっしゃるのです。だからそれはよくないことだと思っている方も、実はたくさんいらっしゃるのです。映画のセットみたいとか書き割りみたいとよく批判、批評されます。なので、できればレトロという言葉遣いは、いわゆる本物志向ということ英語ではオーセンティスティックと言って日本語で真正性と言ったりしますけれども、それを大事にしようという動きが最近、県内でもとても増えてきています。レトロなという言葉遣いは少し工夫していただければと思います。

(座 長)

「レトロな町並み」、①にも出ていますね。

(迫委員)

歴史的とかだといいでしょか。

(岡崎委員)

そうですね。具体的に言えばいいと思います。本物ならいいのですけれども、誤解されやすいのは、何でもかんでも古っぽく見せなければいけないのかという。実際、それがいいと思う方もいらっしゃるし、それに対してよくないと思う方もたくさんいるし、今は古くないものまで古く見せかける必要はないでしょうと。合わせることは必要だけでも、偽物にするとよくないのではないかということで、今、進んでいます。そういう意味で、レトロという言葉は誤解を招きやすい言葉でもあるので、使わないほうがいいと思います。

(迫委員)

「歴史的な参道の」とかにしてもらえると、上古町的にはありがたいです。

ついでに、このページで言うと、6番のところ、それほどイベントをしたいとは思っていないのです。イベントと書いてくださって、イベントの様子があるのですけれども。企画とかであればいいと思うのです。イベントというところいうマルシェっぽいものをイメージされるのですけれども、マルシェをすればいいというものではないし、古くなってきた感じがするので、新しい取組みとかという言い方のほうが我々はうれしいと思います。どちらかという、通りよりも新潟市が持ってきてくださっている駐輪場で我々はいろいろ面白いイベントをやらせていただいているので、少し連想するものが変わるかなというのが少し気になりました。ほかでもこういうものが載っているので、マルシェとかイベントをやっているのが。

(座長)

新しい取組みと言うほうがいいと。

(迫委員)

そのほうがいいかなという気がします。

(事務局)

今の19ページの⑥の図の、イベントをあまり意識していないのだというお話のところですが、意識した絵が6番で入っているのですが、要は我々としては、公共空間を多様な用途に使って賑わいを創出してこうというイメージを持った表現だったのですけれども、6番の絵自体も、これはちょっとという感じでしょうか。我々は、イベントではないにしても、こういった道路、車とか自転車が通っているようなところを何とか町の一つのエリアの活性化の場として、こんな使い方もあるよという一つの例で出したつもりなのですからけれども。

(迫委員)

そうですね。それは分かるのですけれども、それはこのコンセプトに合っているのかという話ですね。例えば、上古町エリアが目指すのがミックスカルチャーで、古さと新しさのある門前文化町。門前文化町がこういうイベント、門前文化感があるエリアは今はないので、いろいろな出店者が出て何か売っていますよという感じではないですか。例えば、古本市とかをやっているのだったらまだ少しニュアンスが違つかもしれないです。

(宮田委員)



お正月の餅つきでもいいですね。

(迫委員)

餅つきでもいいですね。そういう門前感があるようなイラストレーションのほうが、書く時間があればですけれども。

(座長)

中身が文化門前町的ではないと。多分、事務局は、道路の使い方としてこういうものを一つの例として取り上げたかったということですからけれども、もう少し中身の。

(事務局)

一番響くかなと。だれが見ても分かるかと思ったのですけれども。

(迫委員)

そう思ったのですが、これが我々もそんなに歓迎されないというか、やはりどちらかというところ、ほかの方々が出店して何かをしていくということがそんなに歓迎されないエリアではあるのです。何のための何なのかが抜けた場合、意味が分からないよねと。がたふえすとかやるのもいいのだけれども、車が並んで、はてな、みたいな人が多かたりする。個性的な方が多いので。この絵が出てくると、何かこういうものを推進していくのかなという感じが伝わって、もう少し絞ったアプローチをしていくというか。

(知野委員)

きっと迫委員のエリアでは、こういうイメージではないということですね。

(迫委員)

そうです。

(知野委員)

カミフルにはそういうイメージではなくて、例えば、6番町のところだったり、7番町だったりみたいなイメージだということですね。

(迫委員)

多分、交流などということ掲げているエリアに上がるのはとてもいいですし、そこはあがっていますよね。

(宮田委員)

私事ですがけれども、カミフルにこういうものが並んでいるときは、そんなに行かないです。でも、おまつりがあるとか、餅つきがあるとか、あと、何か紙を持って各店舗に入っていく何かありませんか。

(迫委員)

ありますね。

(宮田委員)

ああいうときになるとカミフルに行ってしまうのです。

(迫委員)

明和義人祭のときの様子とかのほうがいいかもしれないですね。

(知野委員)

カミフルらしさみたいなものを表現してほしい。

(迫委員)

歴史を感じられるような、行列をやっているときの、仮装行列というか、餅撒きをしているとか、そういうもののほうが、絵としては感じられるのではないかと。

(長谷川(正)委員)

それは地区地区でのほうがいいと思うのです。我々は今、本当に新潟市のことを考える、これから300年のことまで考えなくてははいけない。最後に言おうと思ったのですが、この会というのは、私が思っているのは、温故知新だと思っているのです。ビジョンが知新です。しかし、温故という、先ほど教授も言っていましたけれども、私は昔、親父から聞いたことがあるのですが、新潟市はなぜ空襲を受けなかったのか。では、なぜ空襲は長岡へ落ちたのか。それだってあるわけです。あるいは本町の路面店が、なぜあそこで栄えたのか。今で言う漬物で味噌屋さんと一緒に結託しましたというのが露天商なのです。その温故が分からないのに、そういったものをもっと深掘りしていけば温故が分かって、では温故の次の知新、ビジョンは、じゃあこうやってあげようぜ、ああやってあげようぜと。今まで来てくれなかった人、今までいる人たちにどれだけ楽しんでもらえるかというのがビジョンなのです。それが一生懸命考えたイベントであったり、それは地区ごとでもいいと思うのです。

今回、これはいろいろ古町地区ばかり言っているのですが、私は本町代表で来ているので思うのですが、では、集まらなかったらどこに集めて、この人たちをどのように波及させるのかという、これが私はポイントだと思うのです。こうでなければ何もならないのです。住んでいる人たちが緑化うんぬんと、経済新聞に載っていましたが、どんどん衰退するところ、古民家があるところについてはどんどん潰して緑化型にしていったほうが絶対に客数が来ますよと。無理です。何かなければ。例えば、うちの店、丸大もそうなのですが、来てくださるための何かあるから来るわけです。それが今回の話で、温故というところにもっと深掘りしていったほうが、もっと素晴らしい新潟になると思います。

古町、本町だけではなくて、例えば、私は2月から3月にずっとよく、うちの店の7階から信濃川をずっと見ているのです。ものすごく人が多いです。これはウォーキングの人、それからジョギングの人、それから学生、高校生とか、ものすごい。昔なんて、私は明訓高校卒業だったので、川端にあった明訓は、ランニングをするときには犬のふんがあつて全然走れなかったのです。今ではあれだけきれいになって、物販もしたら、花見をやるともっとすごいことになると思います。新潟島というものをもう一つ考えてやったほうが、もっと魅力的になるのではないかと思います。だからもう一回、温故知新、温故というものをもう一回考えて、ビジョンは新しいことを考えればいいのです。しかし、温故のところを本当にもう少し深掘りして、ここに記載されていると、こんなものがあるのだと思うのです。それが最後に言いたかったのですが、言ってしまったので、最後の言葉は辞めます。

(座長)

それは例えば、歴史とか文化をもう少し深掘りして、出てくるものがまだあるのではないかと。

(長谷川(正)委員)

はい。

(座長)

少なくとも、今からやれといってもなかなか難しいけれども、そういう姿勢でいろいろ見るということは大事ですよ。

(長谷川(正)委員)

なかなか難しいですけども、追加していけばいいのではないかと思います。

(知野委員)

迫委員が言ってくださったいろいろなものを見ると、各エリアも含めてそうなのですが、せっかく、「古町地区の将来ビジョン」という1、2、3の中で見ると、「住んで良し」という人たちの絵がないとか、「働いて良し」という人たちの楽しさがない。要は、この町に来ている人たちの絵が多い感じがするなど。今の長谷川(正)委員の話も含めて、表現が少し偏っているのではないかと思います。

(座長)

それはどうですか。少なくとも「住んで良し」、「働いて良し」も描かれているのではないかとはいえるけれども、どうですか。

(事務局)

第1回のときにもお話ししたのですが、もともとこのビジョンはだれを的にするのだろうという話があったときに、やはり、まずはそこに住んでいる人たちだよということのスタンスは、我々、抜かしたつもりはないです。住んでいる人がよければ、多分、そこに訪れた人たちも魅力を感じてくれるのだろうという辺りのところがベースにあった状態で、今、実は作ってきたつもりではいるのです。

(知野委員)

先ほど言った、言葉が足りなくて、例えば、ジョギングをしている人も入っていたり、このところに生活感みたいなものがあまり感じなかったなど、そういえばそうだなと。

(迫委員)

例えば、13から19ページの右上かどこかスペースに、想定している利用者の文字情報でも入るといいかもしれません。例えば、花街エリアだと県外の方とか、取引とか仕事で新潟に来られた方とか、歴史好きな方とか。どういう人を想定してるかがあると。例えば、その中で言うと、15ページの辺りになると、ここで働いている方々とか、ここを拠点にまたさらに移動する人たちが行き交う場所というものが入ってきます。本町はこの辺に住んでいる方とか生活者の方及び県外への観光の方というのが入ってくると。今さらあれですか。

(事務局)

今おっしゃっていただいた、各エリアとも住んでいる方、来てくれた方、そこで商いをして

いる方々、そういうものを実はイメージしたつもりではありません。

(座長)

やっているつもりなのですね。

(事務局)

はい。確かに、絵が来街者向けにしか見えないというのはそうかなという感じもしないでもないですけども。

(知野委員)

いろいろなものを、例えば、将来ビジョンの言葉を拾っていくと、そこを見てしまうとそう感じてしまったというだけで、この絵は別に、とても表現として見やすいと思いますし、もっといろいろな人たちというか、温故というものも知ってもらおうとか、住んでいる人たちに伝えていくとか、働いている人たちがこれを見てもっと頑張っこの町をよくしていこうみたいな思いが伝わるようにするのだと、ちょっと、例えば、13 ページだったりすると働いている人たちの顔がきつとあるのか、そのような、だったり、先ほど言った、本当に分かりやすいのは、例えば、ジョギングしたり散歩したりしている人は本当に本町を含めて、古町の朝などは本当に犬の散歩をしている人のほうが多いくらいに、うちもそうですし、母親もそうですけれども、年配の方が、ちょうどアーケードがあるので、本当に朝早くから歩いていたりするのが現実です。それはやはり住んでいる人がそのような生活しているという部分があるので、そうすると、これを全体で見ると、少しその部分が少ないのかなと。

(座長)

そういう典型が、犬の散歩をしている人の絵が少し描いてあるとか。

(知野委員)

そうです。この絵がどうのではなく、そうです。

(座長)

私はどこまでできるか分かりませんが、思いは分かります。右下に①とか②と書いてあるところにも、ユーザーとか働き手のイメージも少し入るような、そういうものもありますけれども。

(知野委員)

文字だけでも。

(座長)

そこを少し工夫するということはできそうですね。

(迫委員)

古町というのは新潟の人が来ている場所だと、新潟の人は思っていますよね。違うのでしょうか。県外の方よりも地元の人に来てほしいとか。イオンにお客さんを取られたとか言っているくらいなので、中の人たちの話をしているのかなという印象が強いのですけれども。よくよく見ても、けっこう外からの人がたくさん来ているというのに古町の人たちは気づけていないと思うのです。何となくですけども。それがこの中にもう少し入ってくると、だから

こそほかにはない歴史が意義深いものなのではないかという伝わり方をするのではないかと感じました。

(岡崎委員)

また細かいことで恐縮です。先ほどの長谷川(正)委員の話で思ったのですが、やすらぎ堤もとても大事な魅力的な資源なのですが、20ページの図、西海岸の松林はきちんと書いてあるので、桜並木も入れたほうがいいのかもかもしれません。あまり書き込みすぎるとあれですけども。この図を見ると、住みやすさの感は出ている気がするのです。学校があって公園があって、住むという観点から見ても魅力的なエリアに見えてくる気はします。

(座長)

そうですね。その割にやすらぎ堤は随分あっさりしていますね。

(岡崎委員)

少しあっさりしているから、もう少し、桜並木くらいは描いても。

(迫委員)

確かに、やすらぎ堤で走っている人が小さくいけばいいかもしれません。

(座長)

なるほど。それがいいですね。小さく描けばいいのだから、あまり。

(宮田委員)

私たちは海があるのは当たり前だと思っているのですが、ここで、日和浜とか、海にすぐ行けるといふ。子どもたち、ファミリーで行けるといふのは本当に大きい素材なのです。海にいる人が見えてもいい話なのだけれども、ここまでミズベリングの話をする。しかし、県外の人にはミズベリングのことをとても評価しています。昼間からあそこで飲める、ちょっと散歩して飲めるという。

(長谷川(正)委員)

それはありますね、確かに。

(長谷川(正)委員)

確かに、うちの丸大もイトーヨーカ堂からの出向者がけっこういるのです。ところが、その中ではやはり海がない県がたくさんいまして、海と川がある、これだけで新潟ってすごいと言っているのです。この二つがあるだけで、絶対にこの町は潤って当たり前だろうと言っているわけです。そのPRが、多分、はっきり言って萬代橋を越えたら海なんか見えていないみたいな。だから、新潟駅で地図をどんとやると、あ、海ってすぐそこなんだ、と。それは新潟市民も分からない。今の高校生も分からない。そういったもののPRが必要ではないかと思っています。とにかく川と海というのはものすごいと思います。

もう一つ、イトーヨーカ堂出向者がよく言うのは、新潟島っておまえ見たことないだろうと。この三角州見たことないだろうと。これがあるのはここだけだぞと。これも私のPRのやり方なのですが、川と海と三角州。ただ、津波があったら最悪だということはあるので、これだけはものすごく大きいPRになると思うのです。

(座 長)

新潟島という言い方そのものが、外の人間からするととても新鮮なのです。島だと普通は思わないものが、あ、みんな島と思っておられるのだというのは、とても新鮮です。

(宮田委員)

この絵をもっと、だんだん欲が出てくるのですけれども、ここのところに佐渡汽船を描いてもらいたいです。船も。

(長谷川(正)委員)

それはいいですね。

(宮田委員)

川のところにヨットを並べているのを描いてもらいたいとか、そのようにどんどん膨れてくるのです。あと、萬代橋はもう少し美しく描いてほしい。冬に、私たち地元の方は萬代橋を歩かないと思うのです。県外の方は萬代橋を歩いてきたとおっしゃるのです。冬に。

こんな風がある寒い中によく歩いてこられましたねと、地元の人、私は絶対に歩きませんよと言うのだけれども、いや、せっかく新潟に来たのだから、この萬代橋を渡るでしょうと県外の方がおっしゃるから、萬代橋をもう少し素敵に描いてもらってもいいのではないかと思います。何かだんだん、せっかくこのパワースポットの的な図面を見たら、何かいろいろなものが出てきてしまっ。

(事務局)

この絵については、別に新潟全景を描こうということではなくて。

(宮田委員)

そうですね。

(事務局)

すみません。当初、この表題にありますように、エリアの連携という視点から書いて、かつ、人を入れたのは、エリアの、特にイメージパースを入れた部分に一種の賑わいの部分ということで、この全景の中でも人を入れるのはこの部分だけだよという形で入れたというのがあれです。ただ、20 ページの位置づけを変えることによって表現も変えていかなければいけないのかなとは思っていますが、なかなかこれを、走っている人とか並木とか萬代橋とか出てくると、ちょっと難しいものがあるのかなと。

(長谷川(正)委員)

ビジョンで150年と言っているのだから、1か月でも2か月遅れてもいいではないですか。これはどんどん足していけばいいと思うのです、この冊子で終わるのではなくて。それが新潟でしょう。

(座 長)

なるほど。来年度の予算に、補正予算か何か作って、いいものを作れませんか。一つの絵でこれだけ話題が盛り上がるというのはなかなかないですよ。これだけ絵が力を持っているということだから、これはけっこう大事にしてもらったほうがいいかもしれません。

(知野委員)

また絵で申し訳ありませんが、もし書き換えてくださるなら、いろいろな人が言っている、白山神社の鳥居は誇張してもいいので、もう少し大きく、全体を見てもらえるようなイメージに書き換えていただけるといいなと思います。やはり、シンボルって何なのと言ったときに、どこが町の全体を支えているというか、白山神社から1番町から13番町まで本当につながっている町であったり、萬代橋からずっと来たり、海、川という、三角州というところの新潟島というところの旧中心市街地なのだというところの魅力という表現に変わってくるならば、もし次回、予算づけをしていただけるなら、もう少し白山神社というのはもっと大きな存在になるのかなと思いました。

(座長)

今回できることと今回ではできないことがあるかもしれないけれども、ここはそういう形で宿題としてまとめて、次に、これだけの熱い思いがあるわけですから、いろいろな努力をしていただきたいと思います。全部こたえられないからやらないというふうには考えないでいただきたいと思います。

(長谷川(雪)委員)

少し場所が違うのですけれども、17ページの古町モールエリアのビジョンです。ここは7番まで書かれていて、その後、三つ続いているのですけれども、番号があつてまた番号が振っていないものもあるのですけれども、基本的には、具体的なイメージを書く場所なのかなと思っているのですが、7番目の次のところの表現が、「時代を感じる街並みと新たな機能が融合し、懐かしさと新しさを同時に感じる街となっている」というところが、ほかの表現に比べると抽象度が増して、何だろうという、少し表現のレベルが違うかなというところで、少し違和感を覚えます。

(座長)

ほかは割と具体的なことが書いてあるので、工夫してくださいと。

番号がついていないのは、図の中で表しにくいようなことだからでしょうか。

(事務局)

はい。絵の中で表現しにくいだけでも、エリアとしてはこんなことをイメージしているといったものは数字なしの丸にしています。

(座長)

いずれにしても、7の次はもう少しほかの具体例と同じくらいのレベルの表現にしたほうがいいのではないかということですね。

(長谷川(雪)委員)

はい。

(迫委員)

17ページの古町モールエリアの特徴で、イベントといっても大型イベントですよ。古町どんとんとかにいがた食の陣というような、単にイベントと言われるよりも、大規模イベント

を長い間継続していることがとても強みかなと思って、それを本当に頻繁にやっていますよね。すごいなと思うのですけれども、そういう大きいものをけっこうやっていて、すごい人が来ているということが書いてあるといいのかなと。それこそここはもっと本当ににぎわっている絵を描いてあげたほうが、この5番とかではなくて。これはジャズストリートとかでしようけれども、もっとすごいものをやっているの、それがあろう方がいいのかなと。

あとは、書けないかもしれないですけども、やはりドカベン、すごいなと私は思っていて、いつまでたってもみんな写真を撮っていますよね。あれは使用が難しいかもしれないですけども、銅像があるというだけでも十分な強みだったりするので、名物アニメの、どこまでほかすのかきちんと書けるのか分からないですけども、人気の銅像があるというのは。あることでマンガ・アニメということを強調できるので、それはけっこう必須。2番、よく見たら②の絵が、これではだめですね。もう少し書き込んで、野球帽くらいかぶせてあげたほうがいいのではないかなというか。バットとか。

(座長)

17ページの7、②の表現と文言でしょうか。

(小沢委員)

またそもそも論に戻りますけれども、2ページの「はじめに」の「なぜ作るのか？」というところ、文章が平面に記載されてありますけれども、5行目でしょうか、「将来像やその実現に向けた方向性を共有することを目的に策定しました」という部分をゴシックとか下線とかで目立つようにしたほうがいいのではないかと思います。それで、その4行下の「今後、本ビジョンが広く共有され、古町地区に関わるさまざまな皆様によって」うんぬんもやはり重要な部分なので、ゴシックなり下線を引いて、何のために作ったのかというのが一番大事なところなので、強調したほうがいいと思います。

(座長)

このところはめりはりをつけて、太字とか工夫して、もう少し伝わるようにしていただきたいということですね。

(小沢委員)

あと、質問ですけども、22ページの四角の5、「既存ストックの有効活用」ということで、前回と少し表現が変わっていると思うのですけれども、「流通促進」というのはどういう意味でしょうか。

(座長)

22ページの四角5の小さい文字の流通促進。これは何ですか。

(事務局)

このビジョン自体が、今言ったようにあまり具体的なものを書き込むのはおかしいだろうという中で、勧告制度というのがいきなり行政用語チックな感じがしたものですから。前は、「空き店舗などのあっせんや勧告制度の創設」と書いてあったのです。

(小沢委員)



勧告というのは勧めるという意味での勧告ですよ。

(事務局)

はい。

(小沢委員)

流通促進というのは利用促進という意味ですか。活用促進というか。

(座長)

活用促進。そのような意味ですよ。

(小沢委員)

流通促進というのは、空き店舗の流動性を高めて所有権を動かすということですか。

(事務局)

空き店舗も流動的にもっと融通し合うというか、使ってほしいという意味を含めての流通という表現をしています。

(小沢委員)

商取引でなくても、それを持っている人が活用してもらってもいいと思うので、流通促進というのは少し踏み込みすぎている感じがします。

(座長)

利用促進とか活用促進とか、何かもう少し。

(小沢委員)

最後のところに既存ストックの活用促進と書いてあるので、流通というのが要るのかどうか。

(迫委員)

今気づいたのですけれども、ただ空き店舗が埋まればいいというものでもないと思うのです。適した活用が非常に重要なので、上には有効活用と書いてあるので、文章の中に「適した」とかというものをきちんと入れる必要があるのかなという気はします。

(座長)

せっかく場所のイメージを描いているので、それに合ったようなお店に入ってもらおうというようなことですね。

(迫委員)

そうです。

(座長)

そろそろよろしいですか。

いろいろたくさん出ましたので、どこまでできるか分かりませんが、しかし、私は全体としては非常に前向きなご意見なので、対応はできる限りやっていただきたいと思います。

お伺いしていて、全体としてこういうフレームとか考え方がだめだというご意見はないので、その意味では、フレームは維持しながら少しずつもっといいものにしていくような努力をしていただきたいと思います。

これからですけれども、恐らくは、これはもう一回というわけにはいかないような気がしますので、どのように変えられるのかということで、最終的な文言の訂正、それから今回できることと、できないことはどういう形、宿題で次のプロジェクトチームに託すのかという辺りも整理していただいて、少し座長とやり取りをさせていただいて、その結果を皆さんにお返しするという形で進めたいと思いますけれども、よろしいですか。

**(岡崎委員)**

今のお話と絡めてなのですけれども、最後の22ページのところで、将来ビジョンの実現に向けて取り組んでいくかのところが、もう少し踏み込んでいただけるとありがたいと思います。最後に6、「情報発信の強化」で終わっているのですけれども、これまでも何度か申し上げましたけれども、実現への道筋が見えるかと言われると、情報発信の強化だと少し弱いのかなど。例えば、今回、古町の中で、市役所のほうで体制を作られましたよね。それで、民間にも花街の会なり100年委員会なり防災なりいろいろな組織があって、体制が整ってきていますから、そこら辺と、どこかに書いてありましたけれども、連携とか、官民協働でみたいなキーワードが出てきましたけれども、それを具体的にこちらのほうにも書いていただきたいと思います。この委員会はこれで終わりでしょうからもう集まることはないのでしょうかけれども、これを実現する、今後どうしていくかが見えないのです。それをどういう形になるか、今の時点では決まらないとは思いますが、行政側と住民側で連携して具体的に進めることを検討するのだということが分かるように書いていただかないと、頑張っている皆さんからすると、これで終わりなのかというように見えなくもないので、その辺、もう1歩、7番くらい、あるいは6番を少し強化するのか、進めますということが分かるように書いていただきたいと思います。

**(座長)**

少なくとも、プロジェクトチームを作って専従の人を充てて動かしていくということをおっしゃったわけだから、そういうことが次のステップになって、現実化に向かっていくということが分かるような形にさせていただければありがたいですね。

ありがとうございました。それでは、申し訳ありませんが、長谷川(雪)委員から、最後の注文でもいいですし、コメントでも感想でもいかがでしょうか。もう言ってしまった方もいらっしゃるけれども、もう一回考えていただいて言っていただきたいと思います。

**(長谷川(雪)委員)**

3回という、本当にあつという間に過ぎていく時間だったなと思っております。いろいろ、市のほかの委員会にも参加させていただいた経験があるのですけれども、これだけ分かりやすいというか、パスを使って、見ていてわくわくするようなものを作っていただいたというのは非常によかったのではないかと、そこは大きな前進なのではないかと、私自身は思っております。多分、市民の皆さんが見られて、こんな古町になるのかなというイメージが湧いて、少し楽しみにできるのではないかと期待しております。あとは、本当に絵に描いた餅にならないようにというのでしょうか。絵だけではない、本当にこれを実現していくのだと

いうところが結局は大事ですので、次期プロジェクトチームもつくるということですし、進めていただけたことを何よりも願っております。どうもありがとうございました。

**(小沢委員)**

これまで、商業活性化という目的のビジョンはいくつかありましたけれども、エリアごとの特徴を生かした、それを伸ばしていくというビジョンは初めてだと思っています。これをもって新潟市に縁のなかった人も初めて来た人も、これを見ればこういう町建てであったり、歴史があって、それがあって今があって将来を考えるというときには非常にいい資料になるのではないかと考えております。

これはあくまでも方向性を示したもので、我々商工会議所も含めて一緒に進めていければと思っています。よろしく願いいたします。

**(長谷川(正)委員)**

どうもご苦労さまです。この3回とも出ささせていただいて、本当に勉強になっております。

この将来ビジョンの話ではなくて、当面、当然、この新潟島に住んでいる、あるいは新潟に住んでいる人たちが、3月22日を基点にどれだけ変わるかというものをまず考えて、今後、行政と民と企業、この三つが連動していかないと立ち直れないと思っています。

今回の新型コロナウイルス、今日うちの店はオープニングから、だれかがSNSで発信したのでしょうか、今、紙不足になりますと言って一人のお客さんがトイレットペーパーをこれだけ持って行くのです。明日から制限されるのです。そういうような、いろいろなところでいつ何が起こるか分からない。しかし、分かっているのは、3月22日は分かっているわけです。ではどうするのだということを考えていかなければいけないと思います。

今回、行政の方もいらっしゃるので、ここだけは本当に、企業として本当に連動できるのだったら一緒にやっていきたい。それで、本当に新潟島におけるGMSはもう丸大だけです。これをうまく使って、引き出しもたくさんあります。その引き出しをうまく行政と連動して、この新潟島を活性化できるような行事であったりイベントであったりうんぬんを、古町、本町、それから榎谷小路、いろいろなところを使って、魅力あるものを、別に毎週でなくていいと思うのです。定期的に、何とか市みたいなものでもかまいませんし、先ほどお話があったように、これもちょっとうちの会社で失礼なのですけれども、こういったものがうちの引き出しとしてはあるわけです。これは多分、行政にも行っていると思うのですけれども、アルビレックスの連動とか。アルビレックスもいろいろなことをやっているのです。そういったものを含めて、私も手伝いますし、市役所の人たちも一緒になって、本当の未来、3月22日以降のことを考えていかないといけないのではないかとということで、今回、このビジョンでする話ではないのですけれども、これは切なる願いで言っていますので、ひとつよろしく願いいたします。

**(座長)**

そのことがこれをやるきっかけになっているわけなので、ぜひ。

**(知野委員)**

いろいろなプランの全体を見せていただいて、とてもよく分かりやすく、そしてまた意見を

言いやすいような表現になっているので、この資料自体なのですけれども、できれば地域の人たちが歴史を知るといふ資料として使っていていいですか、実際にお店をやっている人たちは、前川委員がおっしゃったように知っているのか知らないのかといったときに、現場自体もなかなか知らなかったりするといふ情報が盛りだくさん入っているので、そういったものを2次加工して配布できるようにしていただいたり。

まちづくりの関係でいろいろな町内の重鎮といふか、町内の方々とお話をしたりする機会があるのですけれども、各町内では、迫委員みたいにいろいろなビジョンを各町内で推進しています。なので、そういったものが行政の方々と一緒に一つの場を作れるようになって、この絵のとおり、新潟島というものが本当にいい場所なのだといふのが、300年続いているといふ歴史の中で、少なからず70年なり80年なりつないできた人たちから、これから代替わりになるという大きな転換期になると思いますので、そこにいる、生活で頑張ってきてくださった方々、それからその内容をきちんと伝えられる場、例えば、本当にアーケード一つ取ってもそんなのですけれども、カミフルはきれいに直したりしていいですけれども、8番町、9番町は、いつそれをどうしようかみたいなの、町内自治からそういう話し合いをしたりしています。なので、なるべく温度差がないような場を、皆さんが参加できる場であったり、花街の会ももう何年も頑張っていて、外部の目から入ってきたり、中もいろいろ整備したり、6番町も7番町もいろいろ新しい活動が行われておりました、8番町も大竹座ビルがなくなりました。これからどうするのだといふことを含めて、みんなかかわっている人たちが話し合える場が作れるのが行政なのだと思しますので、今までの会議のこの資料がもう少し皆さんに届くようになればいいなと思います。

とても勉強になりました。ありがとうございます。

(宮田委員)

この3回、本当にどんどんわくわくしてくる会になっていって、参加させていただいて、とても学びの時間を過ごさせていただいて、ありがとうございました。

各エリアが明確にされていることで、やはり、商いをしている個店の人たちも意識が変わっていくのではないかと思います。はっきりと自分のいる場所がどういう形で行くのか、これから整備されていくかといふことがきちんと分かってくると、自分たち個店も、一つのエリアが一つの空間になっていくと、自分たち個店を独自に磨かなければいけないという思いが出てくるのではないかと思います。一緒になることが大事。しかし、個店それぞれが魅力あるものを作っていかなければいけないという意識といふのはまた出てくるのではないかと、やはりそれは町を元気にする一つでもあるので、とてもこれは、私たちの周りにも伝えやすいものになっていくような気がします。正直、9番町はもう、正直なところ、町内会がないような状況になっているので、こういうビジョンがあることから、私たちが町内会をもう一回しっかりと整備していくことも、ちょっと今、すごく課題の一つになっている、私たちが。なので、とてもよかったと思っています。ありがとうございました。

(迫委員)

非常に勉強になった3回の会議だったと思います。私は最初の会議が一番印象的で、本当にやばいんだなというのを感じさせてもらえて、少し、ぼうっとしているわけではないですけども、自分の事業のことばかりやっていたので、何とかしないとやばい、古町、終わるなというのを感じられたのが非常に収穫だったと思っています。

それで、これを作っただけだと何も変わらないという、変わることもあると思うのですけれども、そんなに変わらない。動く人がいないといけませんし、市役所の方が頼もしいというか、こういうものをしっかり作ってくださったので、これが商店街の人だったり地域の人たちに多少伝わったり、連携して結果を出したいなという気持ちになったので、より結果が出るような具体的なことだったりプロジェクトだったりルールだったりというのを早急にやっていると希望が見えるのかなという感じです。ありがとうございました。

#### (前川委員)

3回の中で、いろいろビジョンの資料の組み立てをしている中でも、まだまだ自分が知らなさすぎるなということを痛感させられてきた3回でした。今回出された資料でも、一番ショッキングだったのが、4ページの真ん中の昭和初期の表記で、「まだ狭い榎谷小路」の解説のところ。実は、私は商店街の所属は榎谷小路なのですけども、解説の最後の文章で、「榎谷小路は明治・大正期までは新潟のメインストリートというわけではありませんでした」ということが目からうろこだったのです。萬代橋が昭和の初めからずっと架かっていたところで、都心軸という動線を見ていた中で、そういうイメージが頭の中であつたものですから、実際はそういう感じではなかったのだということをまた今回の資料で改めて認識させられたという部分で、やはりまだまだ我々が知らない埋もれているようなものがこの地域にはたくさんあるのだろうなということを確信しています。

それで、方針の中で、「300年を超えるみなとまち文化の価値を届ける」という文の中に、届けるだけではなくて、価値を知って守る作業というのは必ずやはり届ける前に必要だという考えがあります。知るといふ部分では、今お話しした部分ですし、守るといふ部分も絶対に必要だと思っています。

一つは、今、古町花街をかなりクローズアップしていますがけれども、花街の建物は木造の建物で、新潟県内でも糸魚川の大規模火災とか、この界限でも昔、昭和30年代の初めごろでも大火があつて、大半の建物が焼失したようなエリアもかなりあるのです。同じようなことが起こったときには、簡単になくなってしまふ儂いものなのだという危機意識を持っています。

それで、岡崎委員も入っていただいている古町花街地区防災会を去年の6月くらいに設立して、地元の商店街と町内会を併せて8番町、9番町の火災について、どのように守る、そういう防災について守っていくかという地元の取組みも始まっているような動きで、こういう大切なものがあるから守っていかなければいけないといった機運が、地元からどんどん今、広がり始めてきている状況です。

あと、併せて、そういった財産をもっと、地元の人だけではなく、外の人たちにもアピールできるものがあるのではないかとといったような目線で、今年度、経済産業省の商店街活性化・

観光消費創出事業という、7番町と新潟古町まちづくり株式会社が連携でサイトということで、消費、観光を創出するための取組みというものを7番町のアーケードの整備と、まちみなと情報館という建物の中に案内所、あとは多目的スペースというものをしつらえて、古町に来られる人たちに町の魅力を紹介して、最終的にはお店を利用していただくための橋渡しの機能を持つような施設を、来月の20日にオープンさせる段取りで進めております。そういったような取組みも地元から動いている中で、やはり、もう1歩、もう2歩、取組みをどんどん推進するための仕掛けみたいなものを構築していく必要があるだろうと思っています。

将来ビジョンを組み立てるといのは非常に重要なことですし、3回の中身は非常に濃いものだったと思うのですけれども、多分、これはバージョン1.0だと思うのです。やはりもっと肉づけしていくべきで、共有していくべき情報というのはもっと出てくる可能性があるのです、これがバージョン2とかバージョン3みたいな形で、引き続きみんなで共有して、この場所をもっと、こういうものがあつたのだ、こういういい方向があるよねということも話し合える場があると、よりいいなと思いました。

(岡崎委員)

これまでこうやって具体的に、通りのレベルでも、それから先ほどの鳥瞰図、大変これは多分、作った方々が思っていたら以上に活用できるものだと思うのです。それもイメージが分かって、これで市民の皆さんなどにこの町の将来像、まさに将来ビジョンを共有する基礎的な資料としては大変ありがたいものを作っていたと思います。

結局、ではどうするのという話なのですけれども、結局、やはり事業が必要なわけだから、事業スキームが必要ですし、それに向けた合意形成が必要なわけですから。それで、もちろん、市の財政危機などもありますけれども、これはかなり差し迫った問題で、実際に大事な古町の中核となる建物がすでに売りに出されているとか、料亭の廃業が数年に1回は出るとか、かなり危機的状況なので、ゆっくりやっている余裕もないわけです。もちろんそれは皆さん十分ご承知だと思いますけれども、ぜひ、これを具体的に進める方向で続けていただきたいと思います。早速、すぐにでも続けていただきたいと思いますし、我々もそうですし、花街の会もそうですし、新潟歴史まちづくり推進協議会も結成されております。市全域でそういうことに一緒に取り組める体制ができておりますので、何度も申し上げますように、まず、歴史まちづくり法がとても有効で使いやすいものですから、それも含めて具体的な検討に入りたいと思います。

(座長)

私も最後に一言言わせてもらいます。これだけ盛り上がる会議というのはあまりないです、私はいろいろな会議を経験しておりますけれども。それは一つには、やはりこういうように絵まで描いてきちんとした姿形を提起してくれたので、非常に議論がしやすかったということがあると思います。絵を描くというのは危険な部分もあるので、そしてまた行政の人にとっては、先ほどから出ているように、少し書き換えろという途端に作業が発生して大変な部分があるものだから、嫌がるのです。しかし、今回、きちんとやってくれたということで、これだ

けのことが議論できたというのが一つ大きかったかなと思います。

もう一つは、やはり、委員の皆様方の古町愛がよく分かりました。私は先ほどから申し上げましたように、これを少し改定してもらって最終版にするのだけれども、今日の意見をすべて反映するのはなかなか難しいと思いますので、次にどういう形でプロジェクトチームに引き渡すのかということも少し考えていただいて、先ほど岡崎委員からもありましたように、これは実際に具体的にどのようなにつなげていくのかということに、次の議論を早くやっていただきたいと思います。それをこういう委員の皆様方に、せっかくこれだけのコントリビューションしてくれたので、うまく情報を返していただいて、今後もこういう動きが途絶えないようにしてもらいたいと思います。今、ちょうど期待感が盛り上がっているのだけれども、これが動かなくなると、その分失望感がぐんと来てしまうので、そうならないように、次のプロジェクトチームに、ぜひ、次のステップに動いていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

先ほどから申し上げましたように、最終的な取りまとめに関しては先ほどご了解いただいたように、私と事務局のほうでやらせていただいて、その結果を皆さんにご報告差し上げたいと思います。

短かったですけれども、大変中身の濃い議論ができて本当によかったと思います。それでは、この後、今後の予定もありますので、これから先の進行は事務局にお返したいと思います。よろしく願いします。

#### (司 会)

皆様、大変どうもありがとうございました。

それでは、事務局より、次第3、その他として、今後のスケジュールについてご説明申し上げます。本懇談会は本日で最後となります。本懇談会でいただいた意見を基に将来ビジョンを取りまとめ、3月中には完成版を市のホームページ等で公表させていただきたいと考えております。

それでは、最後に、統括政策監の中川より閉会のごあいさつを申し上げます。

#### (事務局)

今まで、3回にわたりお時間をいただきまして、本当にありがとうございました。まだまだ今日もたくさん宿題をいただいております。シナリオどおり読むと3月中に何とかとなっていますが、本当にできるのかどうか、少し自信がなくなっておりますが、座長と相談しながら作り込んでいきたいと思っております。

先ほど、最後のごあいさつの中でバージョン 1.0 というのは非常に。ここがようやくスタートなのだということを位置づけられるので、そのような表現の仕方も考えながら取り組んでいきたいと思っております。

今まで作って新潟市がいろいろな部署で古町の再生に向けて取り組んでできておりますが、やはり絵に描いた餅にならないように、今回のものについては、せっかくいただいたご意見を今度はビジョンという形にしますので、できればそれをまた我々、各所にチャンスが有る限り

出張って行って説明をする、要はイメージの共有が目的なので、知られないと意味がないパンフレットになりますので、その辺りについては、我々、この会が終わった以降も皆様方のところにまた無理なお願いで何か説明する場を作ってくれとか、そういったことでお願いをする可能性も十分あろうかと思しますので、その際はまた引き続きご協力をいただきたいと思います。

最後に、行政と一緒にというように、我々今まだ期待を持ってもらっている部分は逆に言うと我々にもまだチャンスはあるのかなと思っています。これがその内皆さんの中で、行政はいから我々でやろうというふうになったらもうおしまいなのかなと思っていますので、ぜひ、これからもかかわらせていただきたいと思います。

幸いと言っていいのかどうか分かりませんが、私はまた4月以降もこの場所におりますので、ぜひ、これからもかかわらせていただきたいと思います。本当に心からよろしく願いいたします。本当にありがとうございました。

#### (司 会)

それでは、予定の議題がすべて終了いたしましたので、本日の懇談会は以上をもちまして閉会とさせていただきます。本日は、お忙しいところ誠にありがとうございました。